



財政融資資金の活用事例集

令和4年10月
財務省関東財務局

照会先
財務省関東財務局理財部融資課 関口・松川
TEL (048)600-1158 (直通)

【 財政融資資金の活用事例集作成の趣旨 】

財政融資資金の目的は、その資金をもって公共の利益の増進に寄与することにあります。

また、財政融資資金は、長期・固定・低利で地方公共団体に融資できるので、資金調達能力の低い地方公共団体においても、財政融資資金を活用することで、低コストで各種の事業が実施できます。

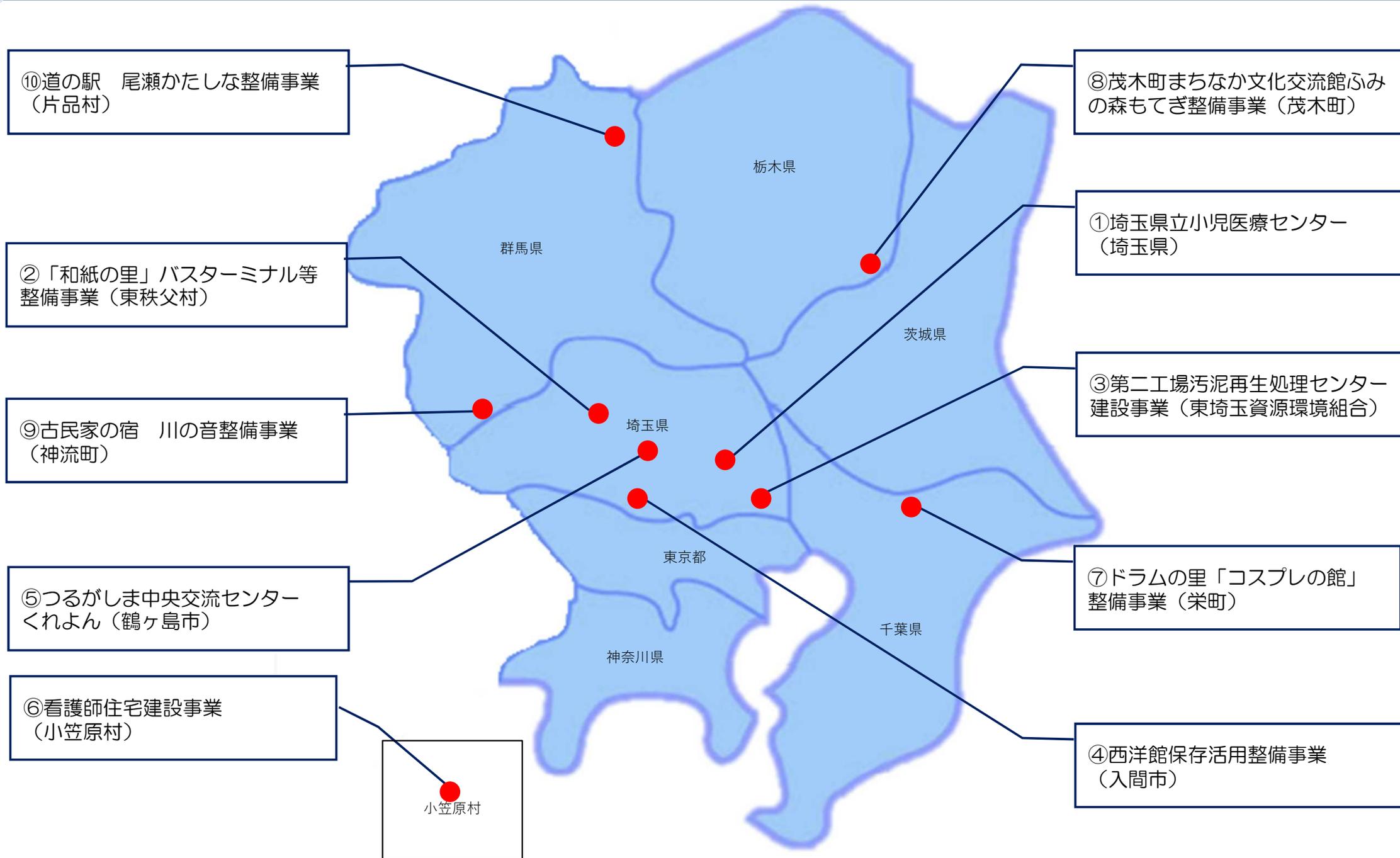
このため、多くの地方公共団体で活用され、生活に必要な公共施設等の整備に役立てられています。

今般、その活用事例の一端を広くお示ししたいと考え、地方公共団体に融資した公共施設等の利用状況等を把握し、本事例集としてとりまとめたものです。

目次

- | | | | | |
|---|--|-------------|-------|-------|
| ① | 埼玉県立小児医療センター 【埼玉県・病院事業】 | 関東財務局融資課 | | P. 1 |
| ② | 「和紙の里」バスターミナル等整備事業 【埼玉県東秩父村・過疎対策事業】 | 関東財務局融資課 | | P. 2 |
| ③ | 第二工場汚泥再生処理センター建設事業 【東埼玉資源環境組合・一般廃棄物処理事業】 | 関東財務局融資課 | | P. 3 |
| ④ | 西洋館保存活用整備事業 【埼玉県入間市・一般補助施設整備等事業】 | 関東財務局融資課 | | P. 4 |
| ⑤ | つるがしま中央交流センター くれよん 【埼玉県鶴ヶ島市・一般補助施設整備等事業】 | 関東財務局融資課 | | P. 5 |
| ⑥ | 看護師住宅建設事業 【東京都小笠原村・辺地対策事業／病院事業】 | 東京財務事務所財務課 | | P. 6 |
| ⑦ | ドラムの里「コスプレの館（やかた）」整備事業 【千葉県栄町・一般補助施設整備等事業】 | 千葉財務事務所財務課 | | P. 7 |
| ⑧ | 茂木町まちなか文化交流館ふみの森もてぎ整備事業 【栃木県茂木町・過疎対策事業】 | 宇都宮財務事務所財務課 | ... | P. 8 |
| ⑨ | 古民家の宿 川の音整備事業 【群馬県神流町・一般補助施設整備等事業】 | 前橋財務事務所財務課 | | P. 9 |
| ⑩ | 道の駅 尾瀬かたしな整備事業 【群馬県片品村・過疎対策事業／一般補助施設等整備事業】 | 前橋財務事務所財務課 | | P. 10 |

所在地



埼玉県立小児医療センター

埼玉県（病院事業）

※画像及び参考資料提供：埼玉県立小児医療センター

事業概要

「埼玉県立小児医療センター」は、昭和58年に開院した前身の施設が32年以上の経年により老朽化したことなどに伴い、新たにさいたま市中央区（さいたま新都心）に整備されたもので、平成28年12月に開院した。

同センターの建設費は総額約375億円であるが、**財政融資資金がそのうち約21億円活用（貸付利率：年1.2%、償還期間：30年）**されている。

事業効果（医療提供体制等）

同センターは小児医療の専門病院であり、内科系、外科系それぞれ11の診療科を有するほか、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、小児がんセンターなどの専門医療部門が設けられている。

令和3年度に外来を受診した延患者数は142,005人、入院患者数は7,687人に上る。なお、病床使用率は下表のとおりであり、他の同規模病院と比較しても高率で推移している。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
小児医療センター	81.1%	77.7%	81.4%	71.4%	80.8%
同規模病院	73.5%	74.1%	74.4%	66.5%	-

【総合周産期母子医療センター】

新生児低体温療法、血液浄化療法、ECMOなどの高度な特殊医療を行うことが可能であり、最重症ハイリスク新生児入院数は全国トップクラスの実績を有する。特に重症新生児仮死に対する新生児低体温療法は、国内におけるパイオニアとなる施設である。

【小児救命救急センター】

重篤な小児救急患者を24時間、365日受入れ、救命治療を行っており、令和3年度においては年間約6,000人の救急外来を受入れている。

【小児がんセンター】

全国で15病院が指定されている「小児がん拠点病院」の一つとして指定を受けており、白血病や脳腫瘍、リンパ腫などの小児がんの治療を行っている。小児血液がんの患者の受入数としては全国トップクラスの実績を有する。



【写真上】
内視鏡手術室

【写真下】
病院内の様子



施設概要

- 所在地：埼玉県さいたま市中央区新都心1-2
- 面積：約10,031㎡（敷地）、約65,448㎡（延床）
- 建築構造：鉄骨造・鉄筋コンクリート造（免震構造）
地上13階／地下1階建
- 病床数：316床
- 指定等：小児がん拠点病院指定（平成25年2月）
総合周産期母子医療センター指定（平成29年1月）
小児救命救急センター指定（平成29年1月）
災害拠点病院指定（平成31年1月）
- 職員数：876名（令和4年4月1日現在）

「和紙の里」バスターミナル等整備事業

埼玉県東秩父村（過疎対策事業）

事業概要

▶ 平成26年度に「和紙：日本の手漉（てすき）和紙技術」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを受け、「和紙の里」を平成28年度にリニューアル。村の観光拠点として道の駅「和紙の里ひがしちちぶ」が誕生した。

▶ 東秩父村においては、和紙の里を日常生活・交通・観光などの様々な中心拠点（和紙の里ハブ化構想）として位置付けており、**財政融資資金約2.2億円を活用（貸付利率：年0.01%、償還期間：12年）**し、和紙の里内に村内路線バス用の「バスターミナル」や地元の野菜等を販売する「農産物販売所」などを整備した。

事業効果（施設活用状況等）

【バスターミナル】

▶ 平成28年10月に村営バスの民間バス会社への統合、和紙の里のバスターミナルをハブとしたより利便性の高いバス路線として再編を実施。和紙の里を中心として合計46便（平日1日あたり）を運行し、活用されている。

【農産物販売所】

▶ 農産物販売所を含めた「和紙の里」の利用者数は、「和紙の里ひがしちちぶ」としてリニューアルした翌年度の平成29年度には、前年度比約9.5%増の111,331人となった。県内外からの利用者も多く、今後も堅調に推移することが見込まれている。

今後の課題

【バスターミナル】

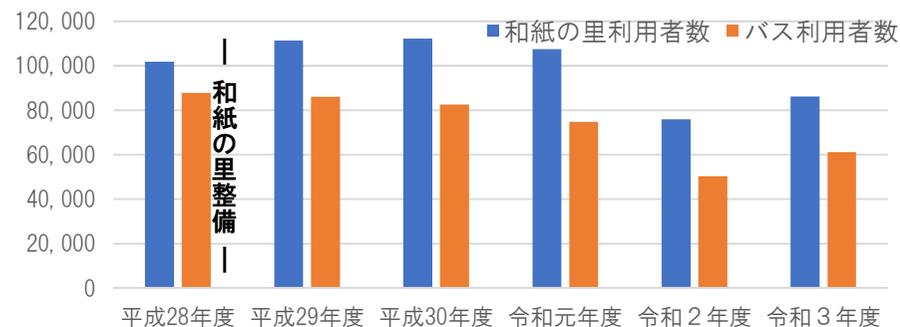
▶ 人口減少や少子高齢化の影響などからバス利用者は減少。運賃収入減少に伴う損失額が増加しており、村の路線バスへの負担金額も増加している。公共交通機関の維持は地域活性化には必要不可欠であることから、今後、バスの運行ダイヤの更なる最適化や、村内のNPO法人が運営する「福祉・空白地有償運送」（交通不便地区のデマンド交通）との協力などにより、村民や観光客の利便性を一層高め、利用者の確保を図ることを検討している。 2

東秩父村概要

▶ 埼玉県西部に位置。周囲は外秩父山地などの山々に囲まれており、村の総面積の76%以上を山林が占める。

▶ 隣接する小川町と共に「細川紙」の産地であり、古くから「和紙の里」として知られる。

▶ 人口は2,612人（令和4年4月1日現在）であるが、平成24年4月からの10年間で743人減少しており、この間の人口減少率は22%を超える。



第二工場汚泥再生処理センター—建設事業

東埼玉資源環境組合（一般廃棄物処理事業）

※画像及び参考資料提供：東埼玉資源環境組合

事業概要等

「第二工場汚泥再生処理センター」（愛称「八條キラリ」）は、「東埼玉資源環境組合」が整備した施設である。埼玉県越谷市、草加市、八潮市、三郷市、吉川市及び松伏町の5市1町における下水道の未処理地域のうち、非水洗化地域からの「し尿」や、水洗化地域における浄化槽利用者から排出される「浄化槽汚泥」などを受け入れ（し尿収集人口は約17万人（令和2年度））、無害化・資源化処理を行う。昭和56年に供用開始された前身の施設が36年以上の時の経過で施設が老朽化したことなどに伴い新たに整備され、平成30年4月から本格稼働を開始した。この「八條キラリ」の建設費約26億円のうち、**約17億円に財政融資資金が活用（貸付利率：年0.07%、償還期間：15年）**されている。

事業効果（施設の特長）

「八條キラリ」は、資源循環に重点を置き「資源の有効活用」及び「施設の環境対策」の観点から運用されている。

資源の有効活用

【汚泥処理】

年間約3,300 t が生成される脱水汚泥の大半を、隣接する同組合のごみ処理施設へ搬入し、「助燃剤」として利用。さらに、ごみ燃焼の際に得られる電力の一部の供給をごみ処理施設から受けることで、使用電力の95%を賄うことが可能

【太陽光】

施設の屋上に太陽光発電設備を設置し、使用電力の5%を賄うことが可能

【雨水】

雨水貯留槽を設置し、施設内のトイレ洗浄水として有効活用

施設の環境対策

【処理水】

厳しい独自基準を設定し、より安全性の高い処理水を精製

【臭気】

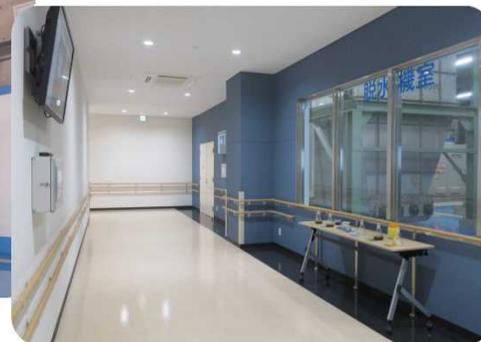
発生する臭気を3段階の濃度ごとに生物脱臭装置と活性炭吸着装置を組み合わせるなどして効率的に処理。また、施設内部を負圧管理することなどにより外部へ臭気が漏れることを抑える

施設概要

面積 : 1,609.4㎡（建築面積）・3,226.9㎡（延床面積）
構造等 : 鉄筋コンクリート造 地上2階、地下1階 高さ14.9m
処理能力 : 260.0kl/日 【内訳】し尿 31.0kl/日
浄化槽汚泥 228.5kl/日 外
※日々、処理能力上限に近い量のし尿や汚泥を処理
資源化方式 : 助燃剤化方式



← 活性炭吸着装置



見学者用スペース →

西洋館保存活用整備事業

埼玉県入間市

(一般補助施設整備等事業)

事業概要

※画像及び参考資料提供：入間市

【西洋館の歴史】

「旧石川組製糸西洋館」は明治から昭和の初めにかけて全国有数の製糸会社であった石川組製糸により外国商人を招くための迎賓館として建設された。平成13年に国登録有形文化財に登録され、平成15年には石川家より入間市に寄贈された。

【西洋館の現在】

平成16年から開始された一般公開では全国各地から来館があり、一般公開以外にもコンサートなどの西洋館の特色を生かしたイベントの開催や、映画などのロケ地としても活用されている。平成29年度には、経年劣化が進んだ西洋館の保存や安全に活用することを目的として改修工事を行った。この改修事業費約83百万円のうち、**約41百万円に財政融資資金が活用（貸付利率：年0.01%、償還期間：10年）**されている。（その他財源、地方創生拠点整備交付金：約41百万円）

事業効果（H29改修工事の効果）

【本館】

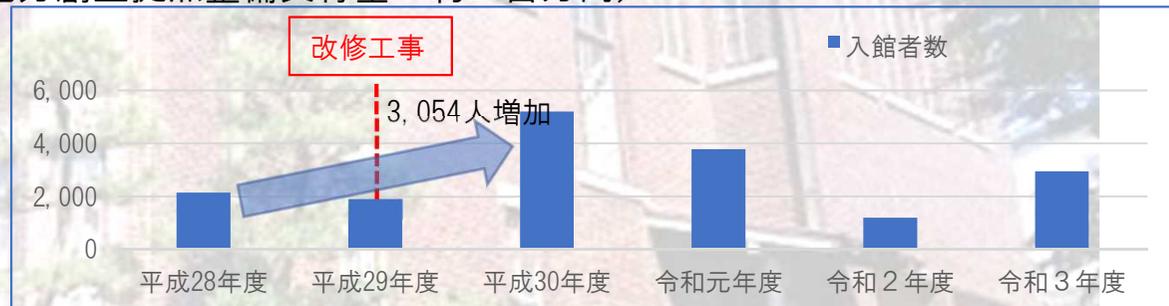
屋根等の経年劣化している箇所を修理を行うことで、保存推進や一般公開できる箇所が増加。

【別館】

来館者のためのトイレ設置や、戦後進駐軍に接收された際の改造を元の形に復元することで、さらなる活用が可能となった。

【来館者数】

改修工事前の平成28年と比較し工事後の平成30年では公開日やイベントを増やし、来館者数が3,054人増加した。



施設概要

所在地：入間市河原町 建築年：大正11年～12年（推定）

施設内容：本館 延床面積 645.61㎡（木造2階建て、地下1階）
別館 延床面積 148.76㎡（木造平屋建て）

今後の保存・活用

現在撮影に使用できない西洋館の貴賓室をはじめとする経年劣化箇所への対策を行いつつ、周辺に所在する文化財である明治時代に建設された「旧黒須銀行」等との連携にも取り組み、入間市の活性化に貢献していく。



改修状況 (改修前)



(改修後)



つるがしま中央交流センター くれよん

埼玉県鶴ヶ島市（一般補助施設整備等事業）

事業概要

※画像及び参考資料提供：鶴ヶ島市、つるがしま中央地域支え合い協議会

「つるがしま中央交流センター くれよん」は、平成29年度（平成30年3月竣工）に自治会館であった共栄第二会館を建て替え、自治会館としての側面だけでなく、鶴ヶ島市北部地区を管轄する「地域包括支援センター」や地域住民の交流の場に利用できる交流スペース等を設け、広く住民が利用できる公共的な複合施設として、地方創生拠点整備交付金を活用して整備。事業費（市補助額）約87百万円のうち、**約42百万円に財政融資資金が活用（貸付利率：年0.3%、償還期間：20年）**されている。

事業効果

「共栄連合自治会」の活動拠点となっているほか、事務室スペースを「つるがしま中央地域支え合い協議会」及び「地域包括支援センター いちばんぼし」が活用し、それぞれが連携し、地域福祉や防災・防犯、子育て支援や世代間交流等の地域活動が実施され、初年度は5,000人以上が利用し、地域の活力向上に繋がっている。

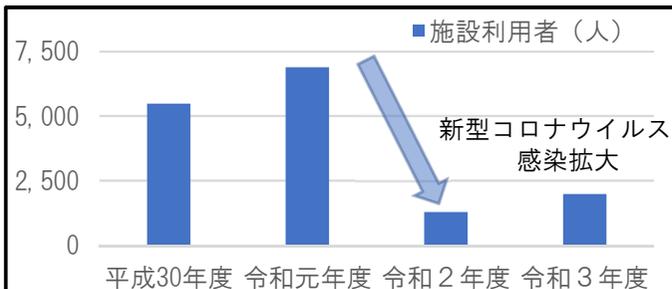
例：消防・防災訓練、防犯講座、放課後子どもサロン、シニア交流（歌謡ショー、健康体操、いきいきサロン）

今後の施設活用

コロナ禍の2年間、施設を利用した地域交流イベントが行えず、施設利用者がコロナ前の3割以下に減少。

つるがしま中央地域支え合い協議会は市のサポートも仰ぎながら、地域がコロナ前の姿に少しでも戻れるように、施設利用者数の回復に向けて、歌謡ショーの再開や、令和4年4月から「くれよん朝市」を定期開催（毎月第4土曜日）。

また、コミュニティキッチンを活用した配食サービス等も検討予定。



施設概要

所在地：埼玉県鶴ヶ島市大字藤金871-3

施設内容：共栄連合自治会事務室×1
つるがしま中央地域支え合い協議会事務室×1
地域包括支援センター「いちばんぼし」×1
交流室×1
多目的会議室×1
交流サロン×1
コミュニティキッチン×1



看護師住宅建設事業

東京都小笠原村（辺地対策事業・病院事業）



小笠原村診療所（全景）。内科を始め計10の診療科を配置し、島民及び島内観光客に医療を提供。島内（父島）唯一の医療機関。

島内医療の状況（事業実施前）

- ▶ 離島における医療体制の確保は最重要事項。特に医療従事者の安定的な確保が課題。
- ▶ 島内には医療人材は乏しく、本土から確保する必要があるところ、本土から小笠原へのアクセスは週1便の船（フェリー）のみ。所要時間も片道24時間を要し、医療体制の維持には厳しい環境。
- ▶ ここ数年の間、毎年2～3名の退職者も発生。

施設概要、利用状況等



財政融資を活用して整備された看護師宿舎。

- ▶ 医療者の離職回避かつ安定的確保のため、財政融資資金を活用し、村内に新たな看護師住宅を建設【*】し、医療従事者の生活環境を整備（R2.3）。

【*】建設事業費1.0億円

財源：**財政融資1.0億円**

辺地0.5億円（貸付利率：年0.005%、償還期間：10年）

病院0.5億円（貸付利率：年0.005%、償還期間：10年）

- ▶ 村外からの医療人材獲得に貢献、必要とする看護師の配置が整う。看護師の勤務シフト適正化も図られるなど、労働環境の改善にも寄与。

- ▶ R2.5月の入居開始後、満室状態が続いている（R4.9現在）。

【写真提供】小笠原村（2枚とも）

ドラムの里「コスプレの館」整備事業

千葉県印旛郡栄町 (一般補助施設整備等事業)

事業概要

※画像やデータは全て栄町より提供

- 栄町内に所在する歴史体験博物館「県立房総のむら(※)」で更なる満足感を体験してもらうため、和装に特化したコスプレ衣装をレンタルできる施設「コスプレの館」を整備。

(※)「県立房総のむら」…江戸時代の街並みや武家屋敷などが再現された県内唯一の体験博物館

【事業年度】平成28年度

【事業費】約90百万円(うち財政融資資金:約43百万円(貸付利率:年0.3%、償還期間:20年)、地方創生拠点整備交付金:約45百万円)



「県立房総のむら」



背景

- ✓ 「県立房総のむら」はコスプレをしながら撮影や散策ができる場所として、コスプレイヤーにとって以前より人気のスポット(=コスプレの聖地)だった
- ✓ コスプレイヤーはSNSによる情報発信力が高く、その結果、国内外でコスプレに対する関心が上昇
- ✓ 栄町は成田空港からの距離も近く、インバウンド需要を取り込みやすい



「コスプレの館」施設概要

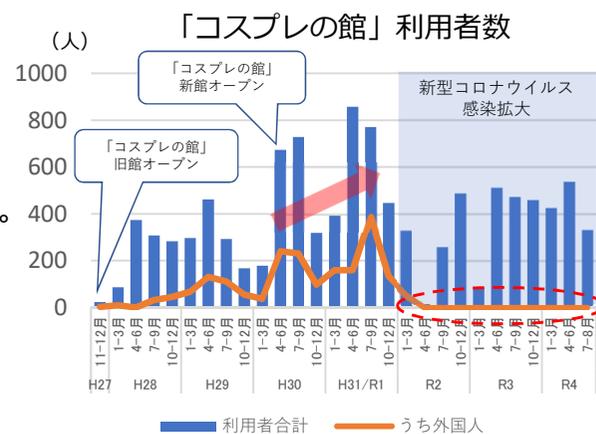
- 木造2階建て(延床面積 約250㎡)
 - 1階: 衣装展示スペース、着替えブース、ショップコーナー等
 - 2階: 更衣室(団体用)、シャワールーム等
 - 貸出衣装: 約300着(忍者、侍、新選組、浪人、町娘、武家娘、ハイカラさん、着物、浴衣等)
- ※貸出衣装は、町のボランティアを中心にハンドメイドで製作

誰もが気軽にコスプレを楽しめる機会を提供することが「地域おこし」につながるのではないか

- 平成27年11月、「県立房総のむら」に隣接する町の総合交流拠点「ドラムの里(※)」内に「コスプレの館(旧館)」をオープンしたが、更なる利用者増加に対応するため、地方創生拠点整備交付金と財政融資資金を活用した新館を新たに整備。(※)「ドラムの里」…レストランや地域の農産物を中心とした産物を販売する物産館、観光案内所などの複合施設

取組・効果

- 平成30年5月の「コスプレの館(新館)」オープン以降、利用者数は大幅に増加。特に外国人観光客の増加が大きく寄与。
 - それに伴い、コスプレ関連グッズの売上げが増加。加えて「県立房総のむら」の入館者数や「ドラムの里」内のレストラン、物産館の売上げ増加にも寄与。
- ⇒ただし、新型コロナウイルス感染拡大以降
- 各種行動制限や入国規制により、利用者数は大きく減少。
 - 特に外国人観光客の利用者数は令和2年4月以降、「ゼロ」で推移しており、厳しい状況が続いている。



今後の展開

- 行動制限の緩和により国内の利用者数は回復してきているが、コロナ前の水準には戻っていないことから、今後のインバウンド需要回復を期待。
- 観光需要が回復するまでの間、アフターコロナで訪れたい場所として認知してもらえるよう、SNSを活用した情報発信を事業の中核としていく。



茂木町まちなか文化交流館ふみの森もてぎ整備事業

栃木県茂木町 (過疎対策事業)

事業概要

「茂木町まちなか文化交流館ふみの森もてぎ」は、同町の地域振興の拠点である「道の駅もてぎ」等と連携し、まちなかの賑わいを再生することを目的として、平成23年に、長い歴史に幕を閉じた酒造蔵元「旧（株）島崎泉治商店」と、隣接する病院跡地等1,900坪を活用、「光・風・木のぬくもりにあふれた、人々の集う居心地よい場所」をコンセプトのもと、図書館機能を有した文化交流館として整備し、平成28年度開館された。（目標利用者数：年／10万人）

財政融資資金は、同施設整備費として活用。【総事業費約15億円（平成26～28）うち**財政融資資金：約8.4億円（貸付利率：0.1%、償還期間：12年（平成26～28））**】

地域の課題

茂木町の中心市街地である茂木地区は「町の顔」として賑わってきた。しかし、近年の少子高齢化等による人口減少や、商業施設の郊外化などにより、空洞化が顕著となっている。また、同町内には年間約140万人（令和2）が利用する「道の駅もてぎ」や、モビリティテーマパークである「モビリティリゾートもてぎ（旧ツインリンク茂木）」、近隣に週末にSLが走る「真岡鉄道」の終着駅「茂木駅」が所在しているが、同地区への人の流れに結びついていない。

事業の工夫・成果等

【工夫】

- 事前に町民に対し、地域に不足している施設を調査。
- 町内産の木材を使用、「光・風・ぬくもり」が感じられる施設に。
- 町の歴史に関する図書や「モビリティリゾートもてぎ」のイベント冊子を取り揃えるなど独自性を持たせた。
- 酒造蔵元の蔵を利用したギャラリーを設置、地元観光業等と連携するなどし、イベント等を定期的に行っている。
- 施設利用者を町民に限定せず、町民以外の者でもイベント等に参加出来、図書についても誰でも借りられるようにした。

【成果等】

他県含む町外の図書館利用登録者も多く、近隣の「茂木駅」や「道の駅もてぎ」の観光客等も来訪し、開所次年度から目標を達成（平成29:10.4万人）。イベントの開催等もあり、地域の文化交流の中心として賑わいを創出している。今後、歩道の整備や電柱の地中化事業等により、地域商店街への波及を見込む。



来館者10万人記念写真（茂木町提供）

茂木町の概要

▶ 栃木県の南東部に所在し、総面積の2/3を標高150m～200mで占める中山間地帯で、観光業や、農業などが盛ん。近年は中山間地域における農業のモデルとして完熟イチゴにも力を入れている。

【人口：11,891人（令和2国調）】

古民家の宿 川の音整備事業

群馬県神流町

(一般補助施設整備等事業)

※画像は全て神流町より提供

事業概要

「古民家の宿 川の音」は、明治期の養蚕農家の古民家を宿泊施設に再生し、町内の森林や隣接した神流川を活用した体験型の宿泊施設。木造2階建ての1階には、体験スペースを兼ねた玄関土間、いろり、ラウンジ、食堂、厨房、浴室、2階には客室4部屋整備。平成30年6月営業開始。

財政融資資金は、この「古民家の宿 川の音」の工事費として活用されている（平成28、29年度事業費：約130百万円。うち財政融資資金：65百万円（貸付利率：年0.01%、償還期間：5年））。

地域の課題

神流町は、主幹産業として農林業が盛んに営まれてきたが、経済産業の低迷により、就業者数は大きく減少した。現在でも、雇用の場が限られているため、就職を機に転出する状況が続いている。高齢化率は62.1%、将来における町の発展と地域の存続が懸念されている。地域資源を活用した産業創出と、交流人口の拡大、観光消費額における経済対策が課題となっている。

利用者に、より魅力ある田舎暮らし体験を提供することで、観光消費額の増加を図るとともに、移住定住に結びつけたい。

事業効果（事後評価）

当該施設の宿泊者数は、令和元年の821名の後、コロナ禍による利用制限により600名程度と頭打ちとなっており、観光消費額は目標額には達していない。

神流町では、当該施設は実績の2倍程度の需要があると見込んでおり、令和4年10月から利用者数の制限を撤廃するとともに、施設管理を民間委託して集客拡大を図ることで観光消費額を増加させることとしている。

なお、移住定住という目的達成のためには、受け皿として町営住宅の整備などが必要と考えており、「古民家の宿 川の音」に宿泊して神流町の魅力を感じてもらい、移住定住までの流れを創出する工夫が課題。

神流町 概要

群馬県の南西部に位置し、地域の大部分を山林が占める山間地帯。一部は埼玉県とも隣接。

人口：1,661人（令和4年9月1日現在。以下同じ。）

うち65歳以上高齢者人口：1,031人（構成比：62.1%）



道の駅 尾瀬かたしな整備事業

群馬県片品村

(過疎対策事業・一般補助施設整備等事業)

※画像は全て片品村より提供

事業概要

「道の駅 尾瀬かたしな」は、片品村の中心地区に情報発信・交流連携拠点エリアを整備し、尾瀬の自然環境や地域の食の魅力などの情報発信及び地域産品の販売などを一体的に行う交流連携拠点施設である。この施設で都市住民等との交流促進を図り、交流人口の増加を実現させることを目的とする。平成30年7月営業開始。

財政融資資金は、この「道の駅 尾瀬かたしな」の工事費として活用されている。

(事業費：約9.2億円。うち財政融資資金：約4.6億円(貸付利率：年0.01%、償還期間：12年(過疎)、5年(一般補助))

地域の課題

片品村は、主幹産業として観光業、農業が盛んに営まれてきたが、経済産業の低迷により、就業者数は大きく減少した。現在でも、雇用の場が限られているため、就職を機に転出する状況が続いている。高齢化率は40.8%、将来における町の発展と地域の存続が懸念されている。地域資源を活用した産業創出と、交流人口の拡大、観光消費額における経済対策が課題となっている。

事業効果(当初)

片品村の特産品の販売や料理の提供を行うほか、村内観光情報を集約して提供し、集客効果を村内の宿泊業者や体験施設など全村へ拡大させるとともに、栃木県日光市や群馬県沼田市との広域連携により「日光-片品-沼田広域観光ルート」を確立して交流人口の増加を図る。

事業効果(事後)

【利用実績】

初年度(平成30年度)から安定した利用実績となっている。
利用者数：平成30年度148千人 → 令和3年度148千人
利用金額：同上 206百万円 → 同上 216百万円
片品村では、今後は地元高校生との合同企画による加工品(まいたけラー油)の販売など、更なる利用者増加策を計画している。

片品村 概要

群馬県の東北端に位置し、尾瀬・丸沼などの自然環境に恵まれている。新潟県・福島県・栃木県に接する。

人口：4,113人(令和4年9月1日現在。以下同じ。)

うち65歳以上高齢者人口：1,680人(構成比：40.8%)

